

1 学校の教育目標の達成状況（概要）

※ 表中の数字の見方

(1)～(5)は児童・保護者、(6)は教職員それぞれのアンケートの中から表中の①～⑧、⑩にあてはまる項目で集計した数値を表示している。該当するものがない・未実施の場合は「\」と記している。（あてはまる：4点 少しあてはまる：3点 あまりあてはまらない：2点 あてはまらない：1点 よく分からない：0点）で集計した平均値を示している。全員が「あてはまる」と答えたものは4.00になる。

(1) 自ら学ぶ子…「基礎的・基本的な内容の定着」と「家庭での学習習慣の定着」

項目	児童		保護者	
	1学期	2学期	1学期	2学期
① 基礎・基本的な学習内容の定着	3.60	3.77	3.05	3.25
② 家庭での学習習慣・学習規律の定着	3.56	3.52	3.47	3.38

○ 昨年度に引き続き、基礎的な学力の定着・向上とよりよい学習習慣の定着に向け、教職員の共通理解を基に取り組むとともに、すべての児童が分かりやすく、学びやすいようユニバーサルデザインを意識した授業を行った。また、タブレット端末や電子黒板などのICT機器の活用がどの学年にも定着し、学習内容の理解を深め、授業改善の一助となった。

(2) 正しく判断する子…「あいさつ」と「はきものそろえ」

項目	児童		保護者	
	1学期	2学期	1学期	2学期
③ 進んであいさつ	3.94	3.81	3.58	3.48
④ はきものそろえ	3.79	3.73	2.33	2.19

○ この2つの事項は、宮窪小学校の伝統として、全児童が特に意識して生活している。「進んであいさつ」については、年度の初めや途中に、全教職員が、登校する児童と元気よく挨拶をするように意識統一を行った。「はきものそろえ」についても、全校朝会や校内放送など、様々な機会を捉えて意識付けをしている。

(3) 正しく判断する子…「自分がされてうれしいことをしたり言ったりする」と「だまってそうじ」

項目	児童		保護者	
	1学期	2学期	1学期	2学期
⑤ 思いやりのある優しい子	3.62	3.64	3.69	3.79
⑥ だまってそうじ	3.59	3.52	\	

○ 各教科等や総合的な学習の時間、学校全体の教育活動との関連を図り、道徳的実践力を育てている。相手を思いやる気持ちを持たせるために、児童には「自分がされてうれしいことをしたり言ったりする。」と具体的に指導している。今年度は、特に人権・同和教育の観点からの学習や行事のねらいを明確にし、教職員の意識統一を図りながら指導・支援を行った。

○ 「だまってそうじ」は、児童が時と場面に応じて適切な行動が取れるように、全校で取り組んでいる。縦割り班での活動を生かして、高学年を手本として異学年で協力しながら掃除をしている。

(4) がんばる子…「健康・体力づくり、生活習慣の確立」

項目	児童		保護者	
	1学期	2学期	1学期	2学期
⑦ 早寝・早起き	3.57	3.47	3.50	3.26

○ 「早寝・早起き」については、望ましい生活習慣を身に付けることができるよう、毎月生活習慣調べをはじめ、いろいろな場面で継続して指導をしている。保護者は1学期に比べ、3ポイント程度減少しているため、家庭との連携・協力についてはさらに工夫・改善の余地がある。

(5) 家庭・地域社会と連携する…「学校・学年便り、HPなどの情報発信」 「家庭との連携」

項目	児童	保護者	
	1学期	1学期	2学期
⑧ 情報発信	\	3.15	3.51

○ 1学期は、例年よりポイントが低くなったので、家庭との連携について改善を行った。その結果、2学期には数値が向上した。各教職員がHPでの情報発信に取り組み、様々な学年の活動の紹介を行った。HPに親しむ児童も増えている。保護者の関心も高く、HPの閲覧者数も常に家庭数を超えている。

(6) 業務改善…「働き方改革を意識した校務処理」

項目	1学期	2学期
⑩ 効率的な校務処理	3.09	3.09

○ 働き方改革を意識した校務処理については、1・2学期ともに平均ポイントが3を超えていて、意識的に取り組むことができた。2学期以降は超過勤務時間が80時間を超える教職員がおらず、45時間～80時間の教員の数も昨年度より減っている。

## 2 主な取組の課題と改善

- (1) ICT機器の有効活用による授業改善とともに、これまでも取り組んできた声に出して読むことや書くことへの取組にも努め、基礎的・基本的な内容の習熟・定着が図れるようにする。
- (2) 生徒指導主事を中心に挨拶の強化週間を決めて、児童に「自分から挨拶」を意識付けするなど、教職員が一致団結して取り組むことができた。地域の方から褒めていただけるほど挨拶が向上してきているが、いつでもだれにでもできるように今後も継続して指導する。「はきものそろえ」については、校内での行いを家庭にも広げていくことが課題である。
- (3) 全教育活動において、全教職員が児童の言動を肯定的に捉え、児童を支援していくことに取り組んでいる。しかし、自分の思うようにならないとカッとなったり、すねたりする児童もいる。教職員研修等を行い、さらに教職員の意識を向上させ、児童のがんばりやよい行動を称揚することで、児童の自己肯定感を育成していく。
- (4) 教職員の指導により、運動への意欲や生活習慣づくりへの児童の意識は向上している。しかし、週明けの月曜日に欠席者や遅刻者が増えるなど、生活リズムがうまく整っていない児童もいて、引き続き、家庭と連携しながら、健康的な生活リズムが身に付くように指導する。
- (5) 学校・学年便りやHPを用いて、本校の教育活動を分かりやすく紹介したり、適切な情報をタイムリーに発信したりして、家庭との連携を図る。
- (6) 学校行事の見直しや精選に努めるとともに、各主任・担当が各分掌について主体的に取り組み、仕事の質を高めながら効率的な校務処理が行えるように校長の指導の下、組織的に取り組めるようにする。